



寒さに負けずかき氷に挑む参加者

感謝を込めて「スポーツクラブ感謝祭」開催

日頃のご愛顧に感謝して、「くぼかわスポーツクラブ・B&G感謝祭」が令和7年12月7日に四万十町窪川B&G海洋センターで開催されました。

eスポーツ大会や気配切り大会、ボルダリング体験の他、無料開放したプールではSUP相撲大会も行われました。また冷たい風が吹く中で開催されたかき氷早食い大会では、豪快にかき氷を頬ばる参加者の姿に、会場は大いに盛り上がっていました。

会場には飲食やアクセサリーの出店販売もあり、利用者の皆さまの笑顔あふれる一日となりました。



中尾町長へ決定通知書を手渡す山崎久留美理事長（右）

地域みらい助成金決定、ホビー館改修へ

（公財）地域みらい財団の地域みらい助成事業に、海洋堂ホビー館四万十の整備を目的とした「四万十町あそぶって探検プロジェクト」が採択されました。

令和7年12月15日には山崎久留美理事長が町役場を訪れ、中尾町長へ決定通知書が手渡されました。この事業では海洋堂のファンだけでなく、「行って、見て、体験したくなる」コンテンツを充実させるとともに、企画展やイベントも実施し入館者や観光客の増加を図ります。令和8年3月のリニューアルオープンを楽しみにお待ちください。



12月17日に中尾町長を表敬訪問した福永選手（右）

福永選手 再起戦の激戦を制す

四万十町出身のプロボクサー福永宇宙選手が、令和7年12月6日に大阪・堺市産業振興センターで行われた再起戦で見事勝利しました。試合中に右手親指の脱臼と靭帯損傷を負うアクシデントに見舞われながらも、壮絶な打ち合いを3-0の判定で制しました。

福永選手は「勝てたけど課題も見えた。環境も良くなっているんでチーム黒潮で頑張り、来年はランキング復帰を目指したい」と力強く宣言。不屈の闘志で勝利を掴んだ福永選手のさらなる飛躍に期待が寄せられます。



制作を担当した山下翼ディレクター（前列右から3人目）

地域に密着！ケーブルテレビがW受賞の快挙

「四国コンテンツ映像フェスタ2025」の上映審査会が令和7年12月20日に松山市で行われ、四万十ケーブルテレビ（四万十公社）が制作した映像「下津井冬もうし」が「プロ・セミプロ・自治体部門」で特別賞を受賞しました。また審査員の映画監督が選ぶ審査員特別賞にも選ばれました。

95点の応募作品の中からW受賞となった本作品は、下津井地区で長年続く神祭を題材とし、「牛鬼」の巡行に老若男女が関わる様子を切り取った点が評価されました。ぜひご視聴ください。



受賞作品はこちら



団体総合3位に入賞した窪川B&G海洋センターの選手たち

水泳大会で町内選手が躍進！昨年超えの総合3位

「第34回B&G財団会長杯四万十町水泳競技大会」が令和7年11月23日に四万十町窪川B&G海洋センターで開催されました。愛媛県からの参加もあり、合計14チーム291名の選手が出場しました。

この大会は、初心者から高知県記録保持者まで幅広いレベルの選手が参加できる大会となっており、プールサイド間近で応援できることから、保護者などに人気の大会です。

窪川B&G海洋センターからは40名の選手が出場し、団体総合では前年の4位を上回る3位に入賞することができました。



落語の魅力やご自身の経験を語った三遊亭萬都さん

落語の魅力に触れる、郷土の先輩講演

四万十町青少年わんぱく学校事業の一環として「文化を仕事にする～職業～落語家」が、令和7年11月28日に窪川四万十会館で開催されました。四万十町出身の三遊亭萬都さんが登壇し、町内の中高生や教職員、約500名に講演しました。

前半は、声色としぐさで登場人物を使い分ける落語の魅力や楽しみ方が語られ、後半には落語の演目「ぞろぞろ」が披露されました。

また、ご自身がなぜ落語の道を選んだのか、二つ目昇進までの道のりについての話もあり、中高生は真剣に聞き入っていました。



ご夫妻で受章の喜びを噛みしめる酒井祥成さん（中央）

酒井祥成さんが旭日双光章を受章

令和7年秋の叙勲において、元四万十町議会議員の酒井祥成さんが、旭日双光章を受章されました。

酒井さんは、平成4年に十和村議会議員に当選して以来、市町村合併後も四万十町議会議員として10期30年にわたり町政に尽力され、地域の発展と住民福祉の向上に多大な貢献をされました。その長年にわたる功績が認められ、今回の栄誉ある受章となりました。令和7年12月5日に高知県知事公邸で行われた伝達式には、妻の和歌子さんと共に出席し、濱田知事から勲記と勲章が手渡されました。



寄贈された3種類の伝記を披露する中平会長（中央）

「保育の父」佐竹音次郎の伝記寄贈

市民団体「保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会」の中平菊美会長が、令和7年12月5日に中尾町長を表敬訪問し伝記など30冊を寄贈しました。中平会長が四万十町出身というご縁から、町内の子どもたちにもぜひ読んでほしいと贈られたものです。佐竹音次郎（四万十市出身）は、日本で初めて「保育園」と名づけた施設を創設し、5千人の身よりのない子どもたちを救った人物です。寄贈本は、町立図書館や各小学校の図書室にも配架しています。明治から昭和を駆け抜けた「保育の父」の生涯を、ぜひ親子で手に取ってご覧ください。